

**令和8年度1学期始業式 校長式辞**

おはようございます。改めまして、新しく川内高校の校長になりました大倉です。生徒の皆さん、よろしくお願ひします。

さて、本日、令和8年度が幕を開けました。明日入学する1年生を加えて、今年度の川内高校は生徒数783名でスタートすることになります。新年度の新しい出会いを大切に、お互いを高め合う令和8年度にしてほしいと思います。

年度当初にあたり、私は皆さんに二つのことを心がけてほしいと思っています。一つは「脳に汗をかけ」ということ。「脳」。ここです（頭を指す）。ここに普段から汗をかけということです。体を動かせば汗が出てきますよね。同じように脳に思いっきり汗をかかすくらい、じっくりと考える時間を高校生のうちに持ってほしいということです。

例えば箱根駅伝のランナーが襷をつなぐために、必死になってラストスパートしますよね。つないだ後は足に力が入らず、自力では立てないくらいになる選手もいる。でも、そこまでできるのは、それまでの練習の中で、本番のパフォーマンス以上に苦しいトレーニングを自分の体に課してきたからだと思うのです。それくらい思いっきり体に汗をかきながら、自分の力を使い切る経験をするからこそ、本番の走りで自分の限界が伸びていく。

皆さんには学習活動や探究活動でも、そういう経験を積んでほしいということです。異なる他者との協働学習等は

絶対に必要な経験だと思いますが、結局それが生かされるかどうかは、自分一人で机に座り、他人の力を借りずに、自分の頭がクッタクタになるくらい考える、そのために必要な知識はコツコツと覚える、慣れが必要な計算などの演習はいとわない、そういう経験を高校生の時にしているかどうかで決まると思うのです。

もう一つは、「自分のルーツに誇りを持つ」ということです。生徒の皆さんの中には、川薩地域に生まれ育ったという人が少なくないでしょう。まさに川薩にルーツがあるといってもよい。そうでないという人も、川内高校に入学したことにより、この地域にルーツが生まれたと考えてもいいわけです。このルーツに誇りを持ってほしいということです。

私はNHKの「ファミリーヒストリー」という番組が好きでよく見るのです。出演者の芸能人やスポーツ選手などの祖先をずっと遡って取材し、その取材内容を本人に見せるという番組です。自分が会ったことのないご先祖様がどんなことを考え、どんな人生を歩んだのかを知ることにより、今の自分の考え方、生き方、そして人生にどう影響しているのかを彼らは感じるようです。あまりにも強く心を動かされ涙を流す人もいます。番組の最後には、自分の存在価値を初めてはっきりと理解できたかのような晴れやかな表情をする出演者も少なくありません。

皆さんが今、川内高校にいることは単なる偶然ではない。皆さんのご先祖さまがこの地域で生き抜いてきたからこそ、今の皆さんがある。そう考えてほしいのです。だとすれば、この川内高校だからできること、川内高校でしかできない

ことにこだわって、探究活動をはじめ、校内外の活動に積極的に取り組んでほしいのです。そういう生徒が増えていくと、川内高校が他の高校とはひと味違う差別化された存在になると思うからです。

皆さんの高校生活が魅力的になるかどうかは、「皆さんが日々の生活や地域の、身近な他者や自分の、これまで気付いていなかった魅力やねうちを発見し、その意味を読み取り、その認識を基にして自分の将来に向けて、いま取り組んでいくこと」がカギなのです。他の地域や学校をそのままねる必要はありません。川内らしさを前面に出したほうが、皆さんがこれから進学していく先からも魅力的に見えることは間違いありません。

家庭や学校だけに閉じこもり、家族や友人・我々先生達とだけ接するのではなく、外の世界にも飛び出して、新たな人との出会いも積極的に求めてほしいと思います。そういう機会を学校からも提供しますし、地域のイベント等も有効に活用して経験値を高めてほしいと思います。

「自分のルーツに誇りを」持って、「脳に思いっきり汗をかいて」ください。これまでチャレンジしたことのないことに第一歩を踏み出す。それに伴い変化し始める自分の内面に、自己の成長の可能性を感じ出す。そうすると、自分が予想もしなかったワクワクする展開が拓けてくるかもしれません。だからこそ、人生は面白い。これから長い人生を歩む皆さんには、そういうポジティブでチャレンジングな発想を持ってほしいと思います。令和8年度の学校生活を、自分たちから能動的に、楽しく充実したものにしていきたいでしょう。

**以上， 1 学期始業式式辞といたします。**